第２章　経　営　戦　略

経　営　戦　略

大桑村簡易水道事業経営戦略更新

令和８年３月

大　桑　村

目　　次

１．はじめに

1.1 はじめに…… 1

1.2 計画期間…… 2

２．基礎調査

2.1 大桑村の概要…… 3

2.2 関連計画調査…… 3

2.3 水道事業の沿革…… 4

2.4 給水の現況…… 5

2.5 給水人口・給水量の実績…… 6

2.6 水道施設の概要…… 9

2.7 事業経営の状況…… 28

３．水需要予測

3.1 人口予測…… 29

3.2 給水量予測…… 31

４．事業の分析

4.1 問題点と課題の抽出…… 38

4.2 施策目標と主要施策…… 40

５．事業計画

5.1 整備計画…… 42

5.2 財政計画…… 44

5.3 評価と見直し…… 45

１．はじめに

1.1　はじめに

大桑村簡易水道事業は、平成 23 年 3 月に東部簡易水道、野尻簡易水道、小川飲料水供給施設、上郷飲料水供給施設、伊奈川簡易給水施設の 5 箇所を統合し創設され、14 年を経過しています。

東部簡易水道の歴史は古く、昭和 47 年の創設以来 4 次の拡張事業等によって給水能力の増大に努め、野尻簡易水道もまた昭和 29 年の創設以来、6 次の拡張事業を重ね今日に至っております。人口減少及び超高齢社会の時代を迎え水需要の伸び悩みに伴う水道事業の経営環境が厳しさを増す中で、今後も安定した水を供給していくためには安全な水の確保、水道施設の良好な維持管理及び健全な会計運営に努め、施設の更新や地震等災害対策を計画的に実施していく必要があります。

本水道事業は地理的要因により施設数が多く管路が長い。また配水池等の構造物施設の多くは水道事業創設当時からの施設が大多数を占めます。配水管についても一部の地区においては同様の傾向がみられ、長期間更新されていないと思われる水道管が存在しています。このように、老朽化が進行し耐震性も乏しいため地震などにより被災した場合の村民生活への影響がきわめて多大であることから、配水施設及び管路施設の更新が最も急がれる状況であります。

また、村では令和 6 年度から令和 10 年度までの総合的な振興計画として『第 6 次大桑村総合計画（前期基本計画)』を策定しています。この計画は**「ここに住みたい　ここで暮らしたい　ここで育てたい　大桑村」**を将来像に掲げ、基本目標（6 つの施策の柱）を設定して進めていくこととしています。

第 6 次大桑村総合計画　基本目標

1. 健やかな笑顔あふれるやさしいむらづくり
2. 花と緑に包まれた美しく安全なむらづくり
3. 快適で住みやすいむらづくり
4. 豊かで活力あふれるむらづくり
5. 一人ひとりが学びつづけられるむらづくり
6. 連携と協働で築く自立のむらづくり

上水道に関連する目標は**「2. 花と緑に包まれた美しく安全なむらづくり」**として、老朽化した管路や施設の更新を、耐震化も含めて進めていく計画です。

一方、長野県環境部では、令和 5 年 3 月に「長野県水道ビジョン」を改訂しました。同ビジョンは、県内水道のあるべき姿を以下のとおり設定し、これを基本理念として県

内水道関係者が共有し、水道行政を推進することとしています。

「人口減少社会の中でも安心・安全な水道水を届ける」

この基本理念の実現のために、水道には以下の 3 つの要素を備えることを目指すこととし、これらを同ビジョンにおける基本目標として設定しています。

「持続可能な水道事業経営」（持続）、「災害に強い強靭な水道の構築」（強靭）、「安心・安全な水道水の供給」（安全）

このような背景のもと大桑村簡易水道事業の見直しを行い持続可能な水道を目指すため、今後 10 年間にわたる具体的な整備計画を示す、**「大桑村簡易水道事業経営戦略」**を作成するものであります。

1.2　計画期間

計画期間は令和 8（2026）年度から令和 17（2035）年度までの 10 年間とします。

また、**「大桑村簡易水道事業経営戦略」**に示す目標と計画は、水需要の見通しや財政事情、利用者のニーズ、社会情勢等の変化を踏まえて、概ね 5 年ごとに見直しをしながら進めていくものとします。

２．基礎調査

2.1 大桑村の概要

大桑村は長野県の南西部、木曽郡の南部に位置し、東西 30km、南北 10km、総面積 234.45km^2 で、東は南駒ケ岳、空木岳等中央アルプスの山々によって伊那谷に接し、南は南木曽町に、西は奥三界岳によって岐阜県中津川市及び王滝村に、北は上松町に隣接しています。

地勢を見ると、村の中央部を北東から南西にかけて流れる木曽川へ。伊奈川、殿小川、阿寺川等の中小河川が流入し、起伏の激しい複雑で急峻な地形をなしています。また、総面積の 95.7%を森林が占め、集落、耕地は木曽川とその支流の比較的平坦な標高 500m～800mの地域に小規模に散在しています。

交通条件を見ると、村の中央部を横断する木曽川の流れに沿って国道 19 号線、ＪＲｔ中央本線が走っており、中津川市まで 33ｋｍ、木曽町まで 24ｋｍの距離にあり、名古屋空港及び松本空港までそれぞれ車で約 2 時間、中部国際空港まで車で約 3 時間の距離にあります。

2.2 関連計画調査

本計画の上位計画として位置づけられる、**『長野県水道ビジョン』**（長野県環境部、令和 5 年 3 月改定)、**『第６次大桑村総合計画』**（令和 5 年 3 月)、**『第２期大桑村人口ビジョン　まち・ひと・しごと創生総合戦略』**（令和 2 年 3 月)、の概要を把握・整理します。

また、大桑村建設水道課における過去の計画として、**『大桑村水道事業経営戦略』**（平成 29 年 3 月）を取り上げ、これらの概要を把握・整理します。

2.3　水道事業の沿革

大桑村簡易水道事業は、①東部簡易水道、②野尻簡易水道、③小川飲料水供給施設、④上郷飲料供給施設、⑤伊奈川簡易給水施設の計 5 箇所を統合し創設されました。各々の水道事業の沿革は**表 2-1** に示す通りです。

表 2-1　水道事業の沿革

東部地区（簡水）

事業名	認可年月日	計画給水人口（人）	一日最大給水量（m3/日）	内容
創設	昭和47年8月	3,200	650	須原・東・弓矢・殿統合
第1次変更	昭和58年11月	3,200	650	給水区域拡張（中尾平）
第2次変更	平成4年6月	2,650	770	給水区域拡張（長野西）
第3次変更	平成8年3月	3,000	1,630	第2水源新設（表流水）増設
第4次変更	平成18年3月	2,430	1,500	急速ろ過→膜ろ過

野尻地区（簡水）

事業名	認可年月日	計画給水人口（人）	一日最大給水量（m3/日）	内容
創設	昭和29年12月	3,000	540	
第1次変更	昭和35年12月	3,000	540	
第2次変更	昭和36年10月	3,000	475	
第3次変更	昭和49年8月	2,280	470	給水区域拡張（阿寺地区） 阿寺水源（湧水）増設
第4次変更	昭和51年12月	2,280	480.5	給水区域拡張（大字野尻字林）
第5次変更	昭和63年3月	2,600	1,000	給水区域拡張（振田、関山、川向） 浄水場新設（緩速ろ過）
第6次変更	平成7年3月	2,280	1,020	給水区域拡張（下在勝井坂地区）

伊奈川地区

事業名	給水開始年月日	計画給水人口（人）	一日最大給水量（m3/日）	内容
小規模水道設置	昭和61年	35	10	伊奈川簡易給水施設

上郷地区

事業名	給水開始年月日	計画給水人口（人）	一日最大給水量（m3/日）	内容
小規模水道設置	平成10年4月	70	34.5	上郷飲料水供給施設

小川地区

事業名	給水開始年月日	計画給水人口（人）	一日最大給水量（m3/日）	内容
小規模水道設置	平成7年4月	70	31	小川飲料水供給施設

大桑村（簡水）

事業名	認可年月日	計画給水人口（人）	一日最大給水量（m3/日）	内容
創設	平成23年3月	4,100	2,400	東部簡水廃止・野尻簡水廃止 小川飲供廃止・上郷飲供廃止 伊奈川簡給を廃止しての統合

2.4　給水の現況

令和 6 年度末現在における給水人口、給水量等は**表 2-2** に示すとおりです。

表 2-2　給水の現況（令和 6 年度）

行政区域内人口	3,150 人
給水区域内人口	3,150 人
給水人口	3,147 人
給水普及率	99.9%
給水世帯数	1,447 世帯

2.5　給水人口・給水量の実績

(1) 人口実績の推移

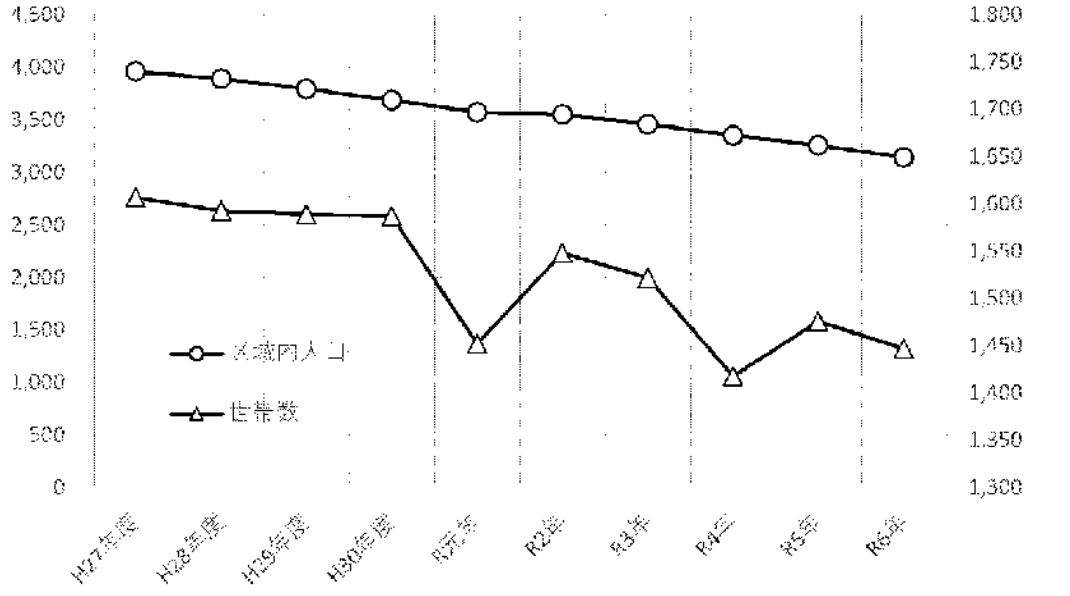
令和 6 年度の給水区域内人口は、平成 27 年度人口 3,963 人から 816 人減少し、3,147 人となっています。減少率は 10 ヶ年平均-2.3%で毎年減少を続けています。

減少は就職期における人口流出や少子化の状況がうかがえ、高齢化の進行によりさらに自然減が進むことも予測されます。**※表 2-3 参照**

表 2-3　給水区域内人口・世帯数の推移

（各年度3月31日現在）

種別 / 年度	人口		前年比増減数		前年比増減率	
	給水区域人口 (人)	世帯数 (戸)	給水区域人口 (人)	世帯数 (戸)	給水区域人口 (%)	世帯数 (%)
H27年度	3,963	1,607	－	－	－	－
H28年度	3,889	1,593	-74	-14	-1.87	-0.87
H29年度	3,797	1,589	-92	-4	-2.37	-0.25
H30年度	3,690	1,587	-107	-2	-2.82	-0.13
R元年	3,573	1,452	-117	-135	-3.17	-8.51
R2年	3,550	1,548	-23	96	-0.64	6.61
R3年	3,460	1,522	-90	-26	-2.54	-1.68
R4年	3,354	1,418	-106	-104	-3.06	-6.83
R5年	3,259	1,476	-95	58	-2.83	4.09
R6年	3,147	1,447	-112	-29	-3.44	-1.96
計	35,682	15,239	-816	-160	-22.74	-9.53
平均	3,568	1,524	-82	-16	-2.27	-0.95



(2)　給水量実績の推移

①一日最大給水量及び一日平均給水量

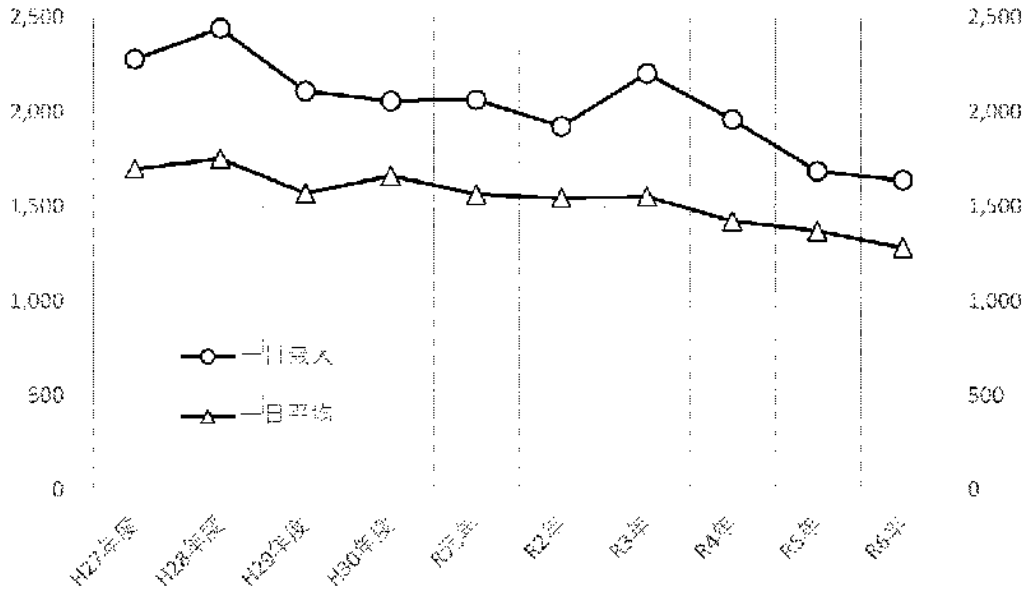
一日最大給水量は、平成 27 年度 2,281m³/日、令和 6 年度 1,640m³/日であり、減少率は 10 ヶ年平均-2.9%となり減少傾向であります。

一日平均給水量も、平成 27 年度から令和 6 年度まで減少傾向となっており、令和 6 年度は 1,284m³/日の実績となっています。**※表 2-4 参照**

表 2-4　一日最大給水量・一日平均給水量の推移

（各年度3月31日現在）

種別 / 年度	給水区域内		前年比増減数		前年比増減率	
	一日最大 (m³)	一日平均 (m³)	一日最大 (m³)	一日平均 (m³)	一日最大 (%)	一日平均 (%)
H27年度	2,281	1,700	-	-	-	-
H28年度	2,444	1,755	163	55	7.15	3.24
H29年度	2,112	1,572	-332	-183	-13.58	-10.43
H30年度	2,059	1,664	-53	92	-2.51	5.85
R元年	2,066	1,566	7	-98	0.34	-5.89
R2年	1,926	1,547	-140	-19	-6.78	-1.21
R3年	2,206	1,555	280	8	14.54	0.52
R4年	1,961	1,426	-245	-129	-11.11	-8.30
R5年	1,689	1,373	-272	-53	-13.87	-3.72
R6年	1,640	1,284	-49	-89	-2.90	-6.48
計	20,384	15,442	-641	-416	-28.72	-26.42
平均	2,038	1,544	-64	-42	-2.87	-2.64



②一人一日最大給水量・一人一日平均給水量

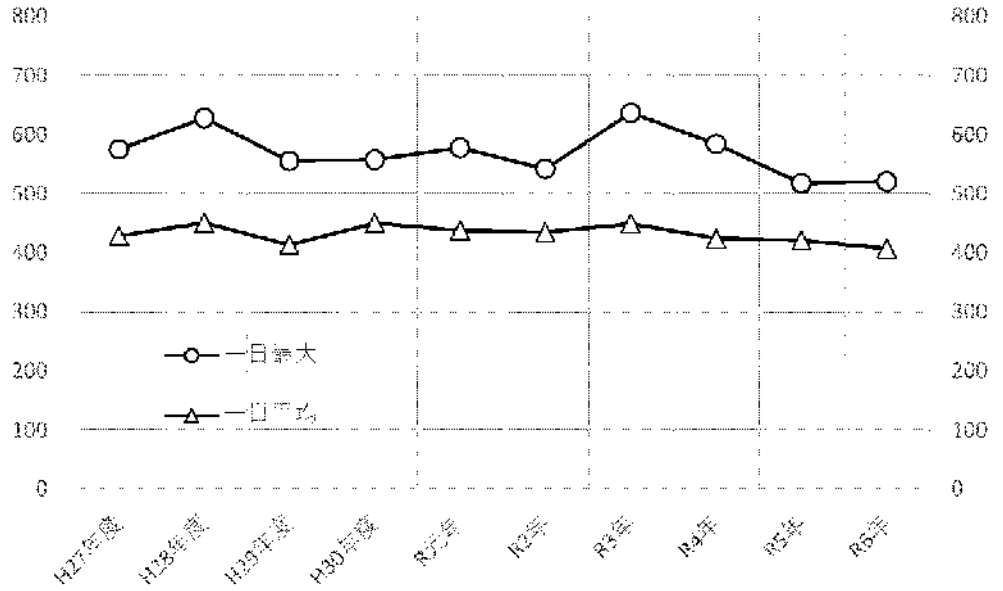
各年度の全体水量と給水人口を基に一人当たりの給水量を算出すると、一人当たり実績は人口減少、給水量実績に反し平均値は横ばい傾向となっています。

※表 2-5 参照

表 2-5　一人一日給水量の推移

（各年度3月31日現在）

種別／年度	給水区域内		前年比増減数		前年比増減率	
	一人一日最大 (m^3)	一人一日平均 (m^3)	一人一日最大 (m^3)	一人一日平均 (m^3)	一人一日最大 (%)	一人一日平均 (%)
H27年度	576	429	-	-	-	-
H28年度	628	451	53	22	9.18	5.20
H29年度	556	414	-72	-37	-11.49	-8.26
H30年度	558	451	2	37	0.32	8.92
R元年	578	438	20	-13	3.63	-2.81
R2年	543	436	-36	-3	-6.17	-0.57
R3年	638	449	95	14	17.52	3.13
R4年	585	425	-53	-24	-8.30	-5.40
R5年	518	421	-66	-4	-11.36	-0.91
R6年	521	408	3	-13	0.55	-3.15
計	5,701	4,323	-54	-21	-6.12	-3.85
平均	570	432	-5.4	-2.1	-0.61	-0.39



2.6　水道施設の概要

(1)　配水区域

現在の配水区域を**図 2-1** に示します。

配水区域は東部地区、野尻地区、小川地区、上郷地区、伊奈川地区の 5 地区に大別し、各水源、浄水施設を整備して配水しています。

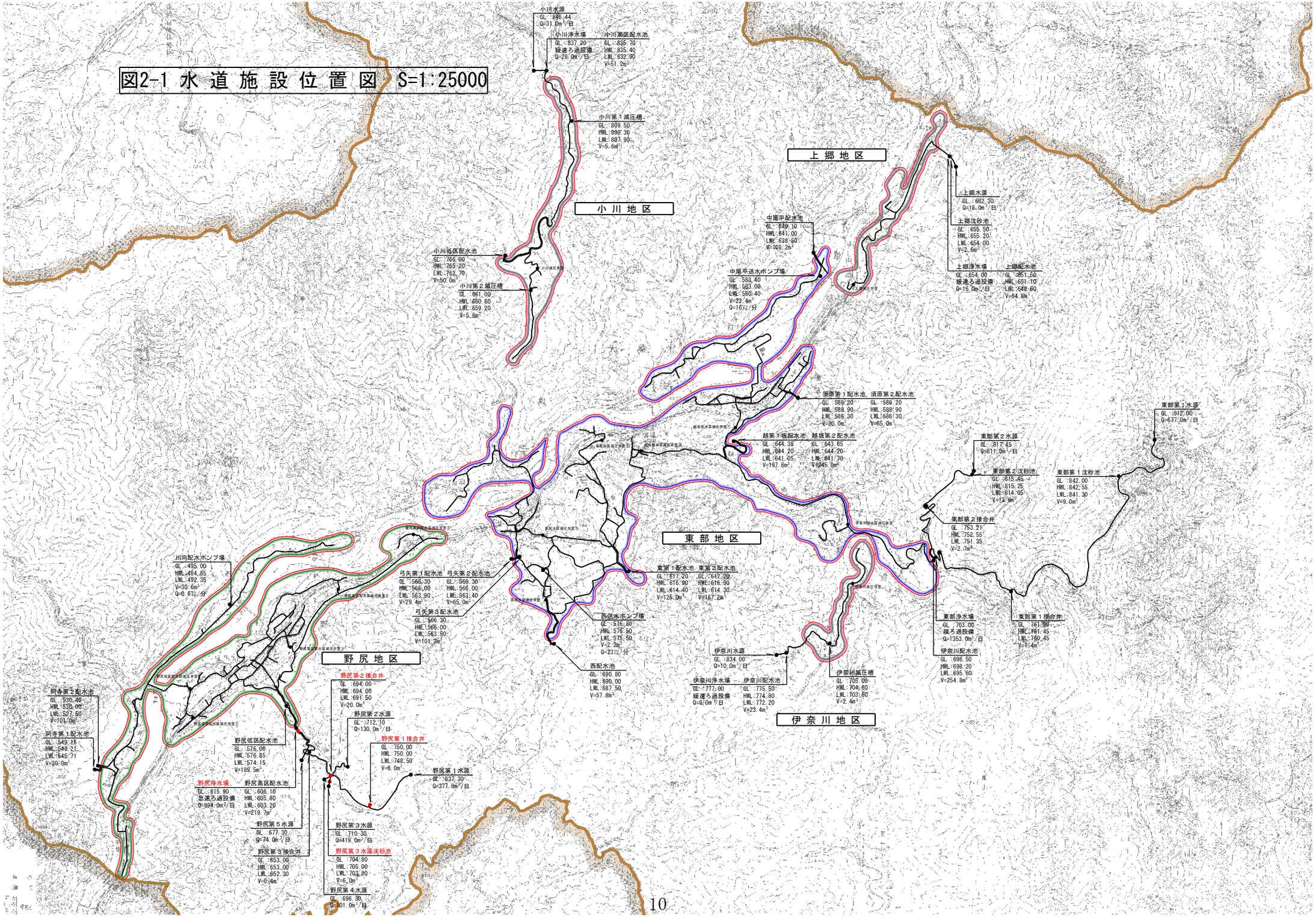


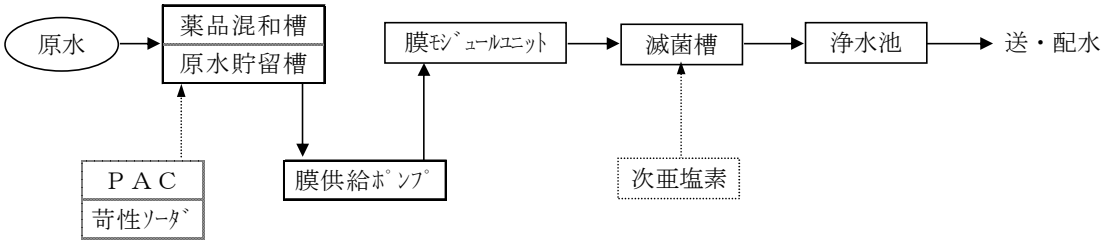
図2-1 水 道 施 設 位 置 図 S=1:25000
小 川 地 区
上 郷 地 区
東 部 地 区
野 尻 地 区
伊 奈 川 地 区
小川水源
GL :896.44
Q=31.0m³/日
小川浄水場
GL :837.20
緩速ろ過設備
Q=28.0m³/日
小川第1配水池
GL :835.70
HWL:835.40
LWL:832.90
V=51.2m³
小川第1減圧槽
GL :809.50
HWL:809.30
LWL:807.90
V=5.6m³
小川低区配水池
GL :766.00
HWL:765.20
LWL:762.70
V=50.0m³
小川第2減圧槽
GL :861.00
HWL:660.60
LWL:659.20
V=5.6m³
上郷水源
GL :682.30
Q=18.0m³/日
上郷沈砂池
GL :655.50
HWL:655.20
LWL:654.00
V=2.6m³
上郷浄水場
GL :654.00
緩速ろ過設備
Q=16.0m³/日
上郷配水池
GL :651.50
HWL:651.10
LWL:648.60
V=64.8m³
中尾平配水池
GL :649.10
HWL:641.00
LWL:638.60
V=101.2m³
中尾平送水ポンプ場
GL :580.40
HWL:583.00
LWL:580.40
V=23.4m³
Q=161/分
須原第1配水池
GL :589.20
HWL:588.90
LWL:586.30
V=80.0m³
須原第2配水池
GL :589.20
HWL:588.90
LWL:586.30
V=65.0m³
越第1配水池
GL :644.35
HWL:644.20
LWL:641.05
V=197.6m³
越第2配水池
GL :643.85
HWL:644.20
LWL:641.70
V=245.0m³
東部第1水源
GL :912.00
Q=637.0m³/日
東部第2水源
GL :817.45
Q=81.0m³/日
東部第2沈砂池
GL :818.45
HWL:815.05
LWL:814.05
V=12.6m³
東部第1沈砂池
GL :842.00
HWL:842.55
LWL:841.30
V=9.0m³
東部第2接合井
GL :753.21
HWL:752.55
LWL:751.35
V=2.7m³
東部浄水場
GL :703.00
緩ろ過設備
Q=1353.0m³/日
東部第1接合井
GL :761.80
HWL:761.45
LWL:760.45
V=1.4m³
伊奈川配水池
GL :698.50
HWL:698.20
LWL:695.60
V=254.8m³
伊奈川減圧槽
GL :705.00
HWL:704.60
LWL:703.60
V=2.4m³
伊奈川水源
GL :834.00
Q=10.0m³/日
伊奈川浄水場
GL :777.00
緩速ろ過設備
Q=0.0m³/日
伊奈川配水池
GL :775.50
HWL:774.80
LWL:772.20
V=23.4m³
西第1配水池
GL :617.20
HWL:616.90
LWL:614.40
V=125.0m³
西第2配水池
GL :617.20
HWL:616.90
LWL:614.30
V=187.2m³
西送水ポンプ場
GL :576.80
HWL:576.50
LWL:575.50
V=2.2m³
Q=23l/分
西配水池
GL :690.80
HWL:690.00
LWL:687.50
V=57.6m³
弓矢第1配水池
GL :568.30
HWL:566.00
LWL:563.90
V=29.4m³
弓矢第2配水池
GL :569.30
HWL:566.00
LWL:563.40
V=65.0m³
弓矢第3配水池
GL :566.30
HWL:566.00
LWL:563.50
V=101.2m³
川向配水ポンプ場
GL :495.00
HWL:494.85
LWL:492.35
V=30.6m³
Q=0.67l/分
阿寺第2配水池
GL :530.40
HWL:530.00
LWL:527.50
V=101.0m³
阿寺第1配水池
GL :549.15
HWL:548.21
LWL:545.71
V=90.0m³
野尻低区配水池
GL :576.00
HWL:576.85
LWL:574.15
V=189.5m³
野尻浄水場
GL :615.90
急速ろ過設備
Q=999.0m³/日
野尻高区配水池
GL :606.10
HWL:605.80
LWL:603.20
V=219.7m³
野尻第5水源
GL :677.30
Q=74.0m³/日
野尻第3接合井
GL :653.00
HWL:653.00
LWL:652.30
V=0.4m³
野尻第2接合井
GL :694.00
HWL:694.00
LWL:691.50
V=20.0m³
野尻第2水源
GL :712.10
Q=130.0m³/日
野尻第1接合井
GL :760.00
HWL:750.00
LWL:748.50
V=6.0m³
野尻第1水源
GL :837.30
Q=377.0m³/日
野尻第3水源
GL :710.30
Q=419.0m³/日
野尻第3水源流砂池
GL :704.80
HWL:705.00
LWL:703.80
V=5.0m³
野尻第4水源
GL :696.30
Q=101.0m³/日

(2)　施　設

現在の水道施設フローを示し、各施設の現状を地区ごとにそれぞれ示します。

(2)-1 東部地区（表流水）

東　部　浄　水　場



東部地区は、伊奈川支流の表流水を取水堰堤にて集水し、東部浄水場に導水する。東部浄水場では膜ろ過方式により表流水のろ過を行い、塩素滅菌により飲用可能な水に処理しています。

この処理された水は伊奈川配水池、越坂配水池、須原配水池、東配水池、弓矢配水池、西配水池、中尾平配水池にて貯留され各区域の需要に応じて給水されています。

・取水施設の概要

施設名	形状寸法	数量 計画取水量 (認可より)	完成年 (経過年)
東部第1水源	種別　表流水（取水堰堤+集水井） 集水井 RC造 V=0.6m3(0.8*0.8*1.8(1.0))	1井 Q=677m3/日	昭和47年 (52年)
東部第1沈砂池	RC造 V=9.0m3(5.0*1.5*2.0(1.2))	1池	昭和47年 (52年)
東部第1接合井	RC造 V=1.4m3(1.2*1.2*1.5(1.0))	1井	昭和47年 (52年)
東部第2水源	種別　表流水（取水堰堤） RC造	1井 Q=810m3/日	平成8年 (28年)
東部第2沈砂池	RC造 V=13.6m3(9.1*1.8*1.7～2.0(1.2))	1池	平成8年 (28年)
東部第2接合井	RC造 V=2.7m3(1.5*1.5*1.7(1.2))	1池	平成8年 (28年)

・浄水施設の概要

施設名	形状寸法	数量	完成年 (経過年)
東部浄水場	膜ろ過		平成18年 (18年)

・送水施設の概要（ポンプ室・ポンプ設備）

施設名	形状寸法	数量	完成年 （経過年）
中尾平送水ポンプ場	ポンプ室 S=9.0m^2 3.0m*3.0m*軒高2.2m	1室	昭和58年 （41年）
	ポンプ槽RC造 V=23.4m^3 3.0*3.0*3.0(2.6)*1池	1槽	
	陸上ポンプ 40A 0.1m3/min*80m*5.5kw	2台	
西送水ポンプ場	ポンプ室 S=13.0m^2 3.6m*3.6m*軒高2.2m	1室	平成5年 （31年）
	ポンプ槽RC造 V=2.2m^3 1.5*1.5*2.0(1.0)*1池	1槽	
	陸上ポンプ 40A*24L/min*125m*3.7kw*200V*60hz	2台	

・配水施設の概要

施設名	形状寸法	数量	完成年 （経過年）
伊奈川配水池	V=254.8m3	1池	昭和48年 （51年）
越坂第1配水池	V=197.6m3　RC造 5.6*5.6*3.5(3.15)*2槽	1池	昭和48年 （51年）
越坂第2配水池	V=245.0m3　RC造 7.0*7.0*3.0(2.5)*2槽	1池	平成20年 （16年）
須原第1配水池	V=80.0m3　RC造 5.7*2.7*3.0(2.6)*2槽	1池	*昭和30年 （69年）*
須原第2配水池	V=65.0m3　RC造 5.0*5.0*3.0(2.6)*1槽	1池	昭和38年 （61年）
中尾平配水池	V=101.2m3　RC造 4.5*4.5*3.0(2.5)*2槽	1池	昭和58年 （41年）
東第1配水池	V=125.0m3　RC造 5.0*5.0*3.0(2.5)*2槽	1池	*昭和32年 （67年）*
東第2配水池	V=187.2m3　RC造 6.0*6.0*3.0(2.6)*2槽	1池	昭和47年 （52年）
西配水池	V=57.8m3　RC造 3.4*3.4*3.0(2.5)*2槽	1池	平成3年 （33年）
~~弓矢第1配水池~~	~~V=29.4m3　RC造 2.0*3.5*2.5(2.1)*2槽~~	~~1池~~	廃止
~~弓矢第2配水池~~	~~V=65.0m3　RC造 5.0*5.0*3.0(2.1)*1槽~~	~~1池~~	廃止
弓矢第3配水池	V=101.2m3　RC造 4.5*4.5*3.0(2.5)*2槽	1池	平成11年 （26年）

⑵-2 各施設の状況（東部）

・取水施設

① 第 1 水源：水源までの管理道路が通行困難となっており、状況が確認できない状態となっています。管理道路の修復を行うか、認可変更で水源を変える等の検討が必要です。

② 第 2 水源：取水状況は良好であり、安定した取水量を確保できています。

・浄水施設

浄水状況は良好であり、安定した処理水を確保できています。

膜ろ過施設の更新には多大は費用が発生するため、長寿命化等の検討が必要です。

・送水施設

送水施設は上水を配水池に送るための施設であり、自然流下では送水が不可能な箇所にポンプ室、ポンプ設備を設けて運用しています。

現在は、定期的なポンプ設備の更新を行い安定した送水を行っています。

・配水施設

配水池は現在 10 箇所あり、創設当時の配水池ほど老朽化が進んでいるため、耐用年数を踏まえて今後の更新計画が必要です

・管路施設

① 導水管：導水管の総延長は現在 5,886m となっています。内訳は第 1 水源導水管が 3,620m、第 2 水源導水管が 2,266m です。口径はφ150～75 で管種は全て耐震管（HPPE、WE、WEET）に更新済みです。更新年度は H14～H17、H27 となっています。

② 送水管：送水管（配水池～配水池も含む）の総延長は現在 9,097m となっています。口径はφ200～50 で管種は一部 HIVPRR（他は HPPE、WED、鋼管、DCIP(K)）が残っており更新年度は H4～H24 となっています。

③ 配水管：配水管の総延長は現在 27,038m となっています。口径はφ200～50 で管種は全体の半分以上が HIVPRR です（他は HPPE、WED、WEET、鋼管、DCIP(K)、PP)。更新年度は H4～R3 となっています。一方で、年度不明管が約 3,300m 存在しているため不明管の更新を計画します。

図 2-2　布設年度と管路延長（東部）

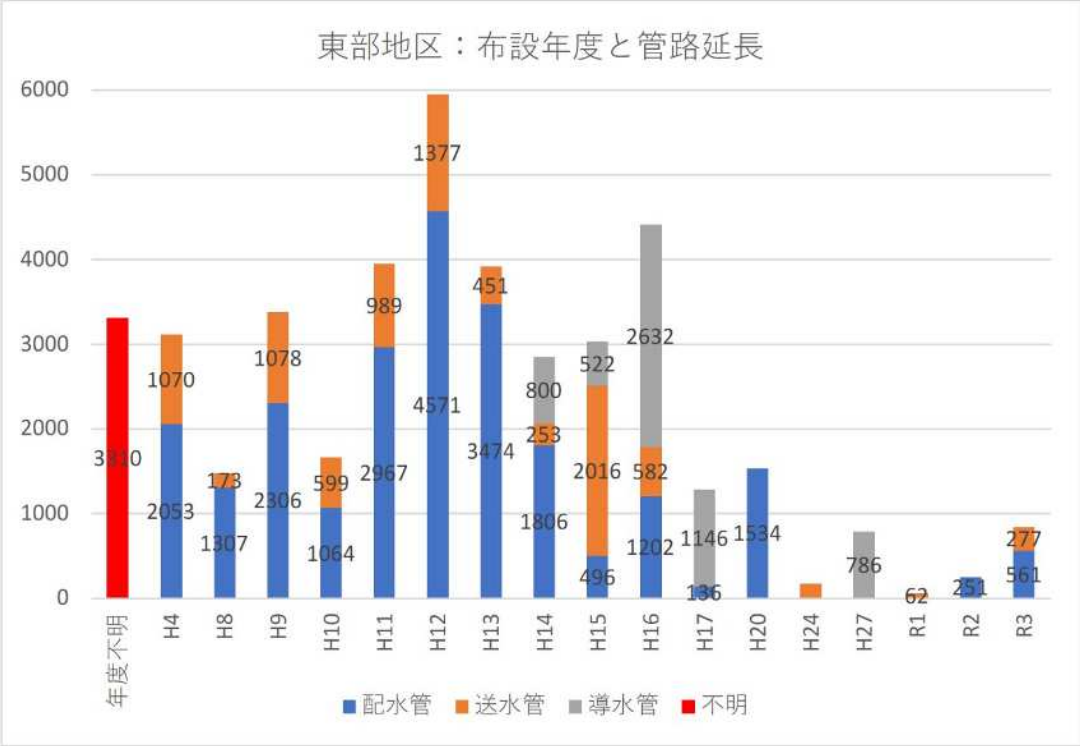
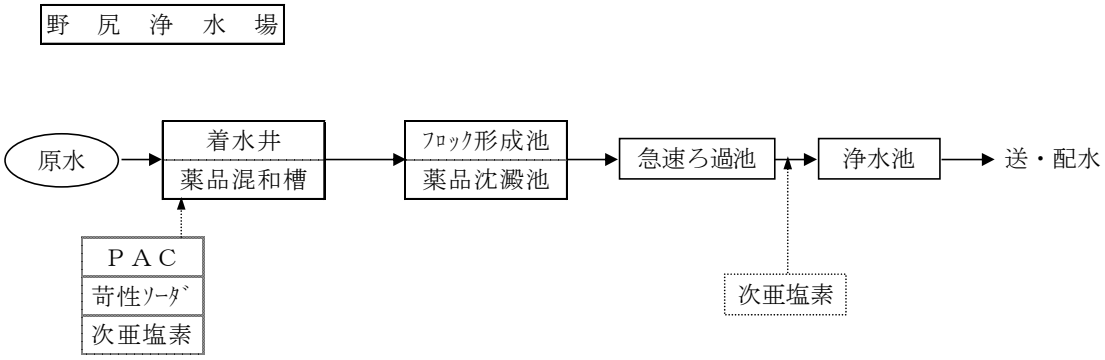


表 2-6　耐震化状況（東部）

地区名	令和7年度				
	管路延長	耐震適合性のある管の延長	耐震管の延長	耐震適合率	耐震管率
	(m)	(m)	(m)	(%)	(%)
	(A)	(B)	(C)	(B/A)	(C/A)
東部	42,021	24,203	9,104	57.6	21.7

(2)-3 野尻地区（表流水）



野尻地区は一級河川 二反田川支流の表流水を取水堰堤にて集水し、野尻浄水場に導水する。野尻浄水場では急速ろ過方式により表流水のろ過を行い、塩素滅菌により飲用可能な水に処理しています。

この処理された水は野尻高区配水池、野尻低区配水池、阿寺配水池にて貯留され各区域の需要に応じて給水されています。

・取水施設の概要

施設名	形状寸法	数量 計画取水量 （認可より）	完成年 （経過年）
野尻第1水源	種別　表流水（取水堰堤+集水井） 集水井 RC造 V=0.3m3(0.7*0.7*1.3(0.7))	1井 Q=377m3/日	*昭和37年* *（62年）*
野尻第1接合井	RC造 V=5.0m3(2.5*2.0*1.5(1.0))	1井	平成24年 （12年）
野尻第2水源	種別　表流水（取水堰堤+集水井） 集水井 RC造 V=1.1m3(1.6*1.0*1.3(0.7))	1井 Q=130m3/日	*昭和31年* *（68年）*
野尻第2接合井	RC造 V=10.1m3(2.5*2.7*2.0(1.5))	1井	平成25年 （11年）
野尻第3水源	種別　表流水（取水堰堤+集水井+沈砂池） 集水井 RC造 V=0.3m3(0.7*0.7*1.3(0.7)) 沈砂池 RC造 V=7.5m3(1.5*7.8*1.5～1.8(1.0))	1井 Q=419m3/日	*昭和31年* *（68年）* 平成23年 （13年）
野尻第3接合井	RC造 V=6.4m3　2.0*2.0*1.6*1池	1井	平成9年 （27年）
野尻第4水源	種別　表流水（取水堰堤+集水井） 集水井 RC造 V=0.3m3(0.7*0.7*1.3(0.7))	1井 Q=101m3/日	*昭和31年* *（68年）*
野尻第5水源	種別　表流水（取水堰堤+集水井） 集水井 RC造 V=0.3m3(0.7*0.7*1.3(0.7))	1井 Q=76m3/日	*昭和36年* *（63年）*

・浄水施設の概要

施設名	形状寸法	数量	完成年 (経過年)
野尻浄水場	急速ろ過		昭和63年 (36年)

・送水施設の概要（ポンプ室・ポンプ設備）

施設名	形状寸法	数量	完成年 (経過年)
川向配水ポンプ場	ポンプ槽上屋 A=4.0m^2 2.15*2.15*軒高2.5	1室	平成13年 (23年)
	ポンプ槽RC造 V=30.6m3 3.5*3.5*3.0(2.5)*1池	1槽	
	陸上ポンプ 50A*65A 0.6m3/min*75m*7.5kw	2台	

・配水施設の概要

施設名	形状寸法	数量	完成年 (経過年)
高区配水池	V=219.7m3　RC造 6.5*6.5*3.0(2.6)*2槽	1池	昭和46年 (53年)
低区配水池	V=189.5m3　RC造 9.0*7.8*3.2(2.7)*1槽	1池	*昭和30年 (69年)*
阿寺第1配水池	V=30.0m3		昭和42年 (57年)
阿寺第2配水池	V=101.0m3　RC造 4.5*4.5*3.0(2.5)*2槽	1池	平成7年 (29年)

⑵-4 各施設の状況（野尻）

・取水施設

各水源とも取水状況は良好であり、安定した取水量を確保できています。

・浄水施設

浄水状況は良好であり安定した処理水を確保できていますが、築造年数が 36 年経っており、長期的にみた場合には更新の必要があります。

・送水施設

送水施設は上水を配水池に送るための施設であり、自然流下では送水が不可能な箇所にポンプ室、ポンプ設備を設けて運用しています。

現在は、定期的なポンプ設備の更新を行い安定した送水を行っています。

・配水施設

配水池は現在 2 箇所あり、創設当時の配水池ほど老朽化が進んでいるため、耐用年数を踏まえて今後の更新計画が必要です。

・管路施設

① 導水管：導水管の総延長は現在 2,122m となっています。内訳は第 1 水源導水管が 794m、第 2 水源導水管が 264m（内 237m 不明）、第 3 水源導水管が 90m、第 4 水源導水管が 30m（内 24m不明）、第 5 水源導水管が 64m（内 64m不明）、その他導水管が 880mです。口径はφ150～50 で管種は耐震管および適合性管（HPPE、WE、WEET、GNGWDA、DCIP(K)）に更新済みです。更新年度は H9～R5 となっています。また年度不明管が 325m 存在します。

② 送水管：送水管（配水池～配水池も含む）の総延長は現在 503m となっています。口径はφ150～100 で管種は全て HIVPRR です。更新年度は H16～H17 となっています。

③ 配水管：配水管の総延長は現在 19,080m となっています。口径はφ200～50 で管種は全体の 2/3 以上が HIVPRR です（他は HPPE、WED、WEET、鋼管、DCIP(K)、PP）。更新年度は H6～R4 となっていますが S53、S63 に布設された古い管も存在します。東部地区と同様に年度不明管が約 7,200m 存在します。

図 2-3　布設年度と管路延長（野尻）

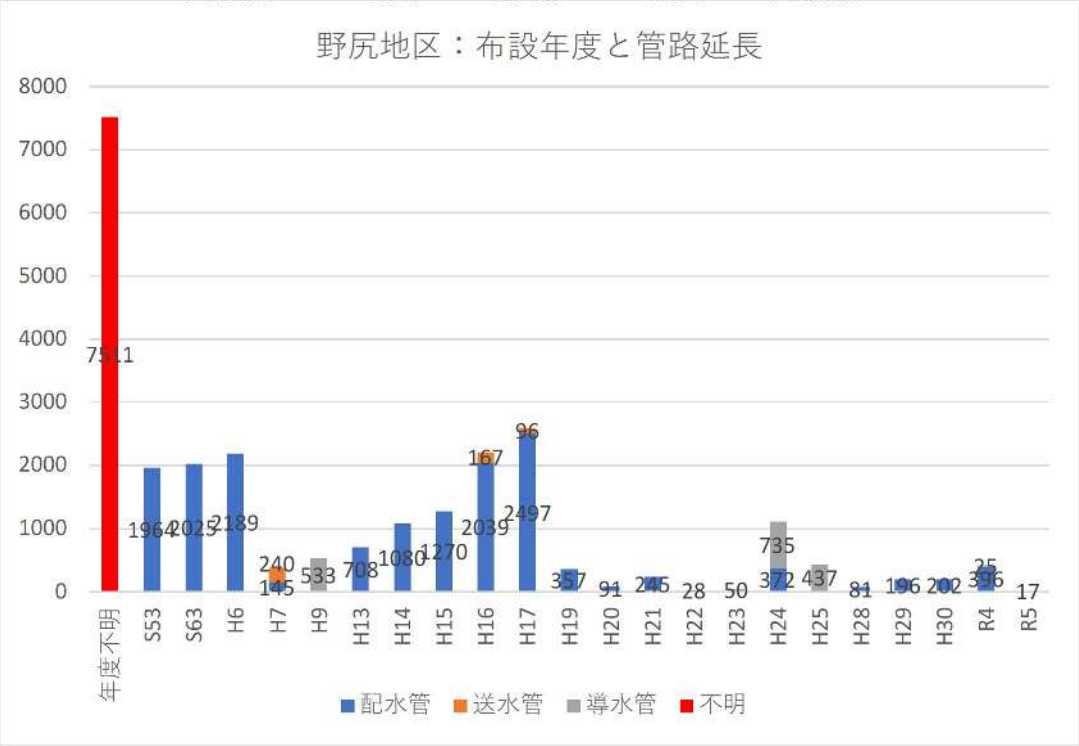
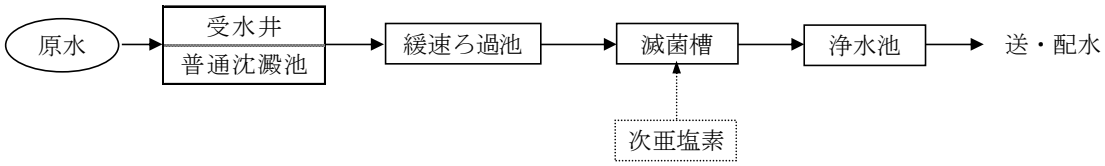


表 2-7　耐震化状況（野尻）

地区名	令和7年度				
	管路延長	耐震適合性のある管の延長	耐震管の延長	耐震適合率	耐震管率
	(m)	(m)	(m)	(%)	(%)
	(A)	(B)	(C)	(B/A)	(C/A)
野尻	25,694	5,645	2,741	22.0	10.7

(2)-5 小川地区（表流水）

小　川　浄　水　場



小川地区は一級河川 殿小川支流の表流水を取水堰堤にて集水し、小川浄水場に導水する。小川浄水場では緩速ろ過方式により表流水のろ過を行い、塩素滅菌により飲用可能な水に処理しています。この処理された水は小川高区配水池、小川低区配水池にて貯留され各区域の需要に応じて給水されています。

・取水施設の概要

施設名	形状寸法	数量 計画取水量 (認可より)	完成年 (経過年)
小川水源	種別　表流水（取水堰堤+集水井） 集水井 RC造 V=0.8m3(1.5*1.0*2.0(0.5))	1井 Q=31m3/日	平成4年 (32年)

・浄水施設の概要

施設名	形状寸法	数量	完成年 (経過年)
小川浄水場	緩速ろ過		平成4年 (32年)

・配水施設の概要

施設名	形状寸法	数量	完成年 (経過年)
小川高区配水池	V=51.2m3　RC造 3.2*3.2*3.0(2.5)*2池	1池	平成4年 (32年)
小川低区配水池	V=45.0m3　RC造 3.0*3.0*3.0(2.5)*2池	1池	平成6年 (30年)

・他施設の概要

施設名	形状寸法	数量	完成年 (経過年)
小川第1減圧槽	V=5.6m3　RC造 2.0*2.0*2.0(1.4)*1	1槽	平成5年 (31年)
小川第2減圧槽	V=5.6m3　RC造 2.0*2.0*2.0(1.4)*1	1槽	平成6年 (30年)

⑵-6 各施設の状況（小川）

・取水施設

取水状況は良好であり、安定した取水量を確保できています。

・浄水施設

浄水状況は良好であり、安定した処理水を確保できています。

・配水施設

配水池は現在 2 箇所あり、良好で安定した機能を確保できています。

・管路施設

① 導水管：導水管の総延長は現在 94m となっています。口径はφ50 で管種は SP 及び PP です。布設年度は H4～H5 となっています。

② 送水管：送水管（配水池～配水池も含む）の総延長は現在 978m となっています。口径はφ50 で管種は WEET 及び PP です。布設年度は H6 となっています。

③ 配水管：配水管の総延長は現在 4,847m となっています。口径はφ100～75 で管種は全体の 9 割以上が HIVPRR です（他は WEET、GNGWDA、鋼管、DCIP(K)）。布設年度は H5～H9 となっています。

図 2-4　布設年度と管路延長（小川）

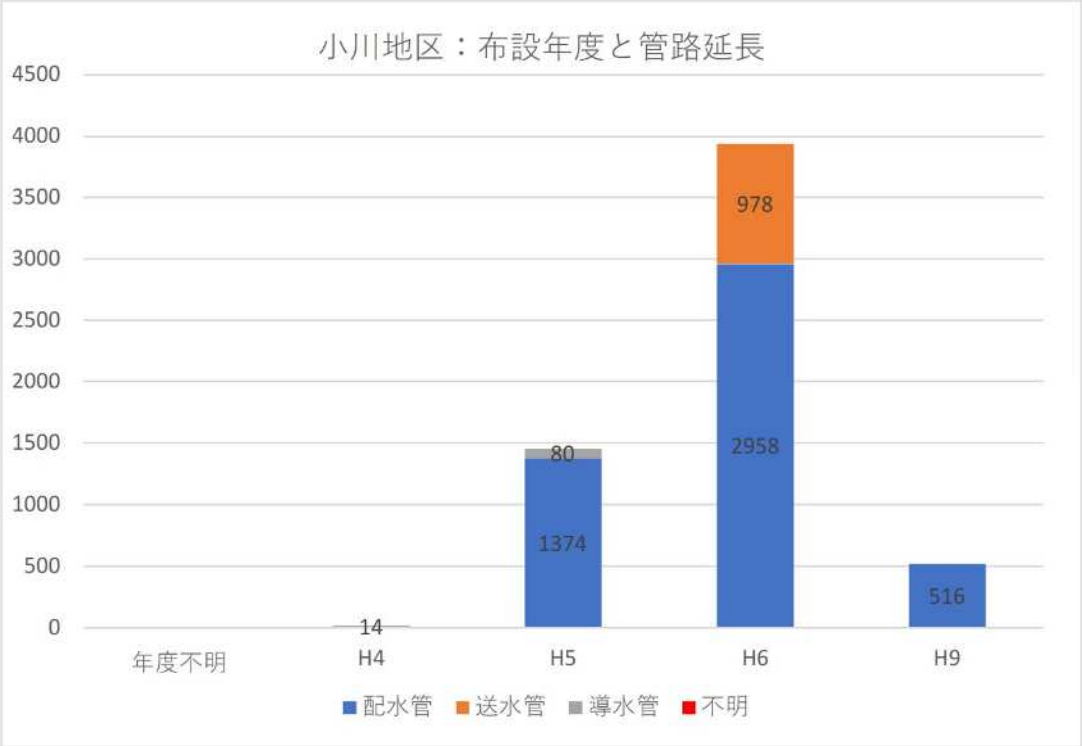
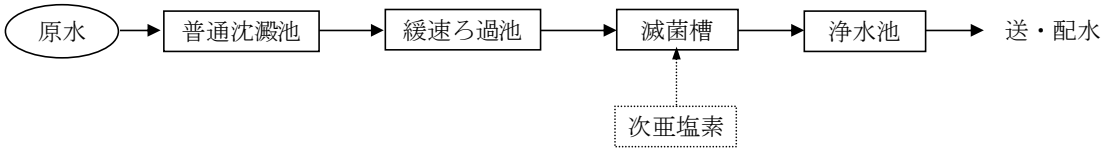


表 2-8　耐震化状況（小川）

地区名	令和7年度				
	管路延長	耐震適合性のある管の延長	耐震管の延長	耐震適合率	耐震管率
	(m) (A)	(m) (B)	(m) (C)	(%) (B/A)	(%) (C/A)
小川	5,919	763	757	12.9	12.8

(2)-7 上郷地区（表流水）

上　郷　浄　水　場



上郷地区は村所有の沢より表流水を取水堰堤にて集水し、上郷浄水場に導水する。上郷浄水場では緩速ろ過方式により表流水のろ過を行い、塩素滅菌により飲用可能な水に処理しています。この処理された水は上郷配水池にて貯留され区域の需要に応じて給水されています。

・取水施設の概要

施設名	形状寸法	数量 計画取水量 （認可より）	完成年 （経過年）
上郷水源	種別　表流水（取水堰堤） RC造	1井 Q=18m3/日	平成8年 （28年）
上郷沈砂池	RC造 V=2.6m3(3.7*0.7*1.8～1.7(1.0))		平成8年 （28年）

・浄水施設の概要

施設名	形状寸法	数量	完成年 （経過年）
上郷浄水場	緩速ろ過		平成8年 （28年）

・配水施設の概要

施設名	形状寸法	数量	完成年 （経過年）
上郷配水池	V=64.8m3　RC造 3.6*3.6*2.5*2池	1池	平成8年 （28年）

⑵-8 各施設の状況（上郷）

・取水施設

取水状況は良好であり、安定した取水量を確保できています。

・浄水施設

浄水状況は良好であり、安定した処理水を確保できています。

・配水施設

配水池は現在 1 箇所あり、良好で安定した機能を確保できています。

・管路施設

① 導水管：導水管の総延長は現在 237m となっています。口径はφ40 で管種は VD 及び PP です。布設年度は H8 となっています。

② 配水管：配水管の総延長は現在 2,601m となっています。口径はφ100～75 で管種は全体の 9 割以上が HIVPRR です。布設年度は H8～H9 となっています。

図 2-5　布設年度と管路延長（上郷）

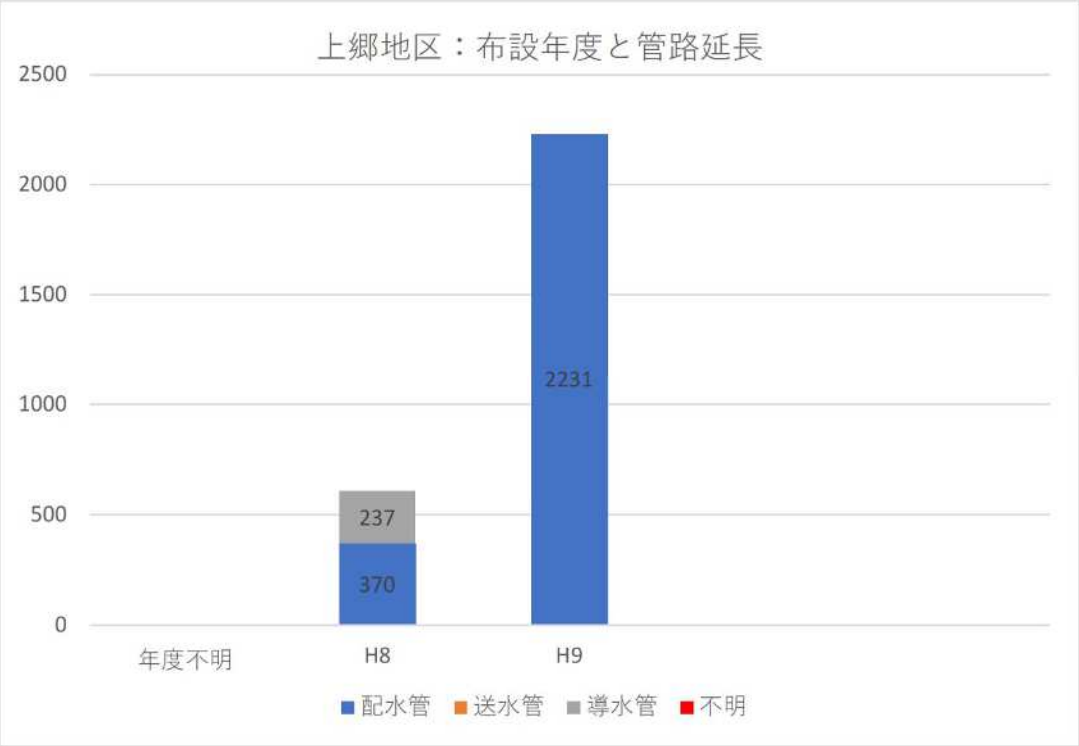
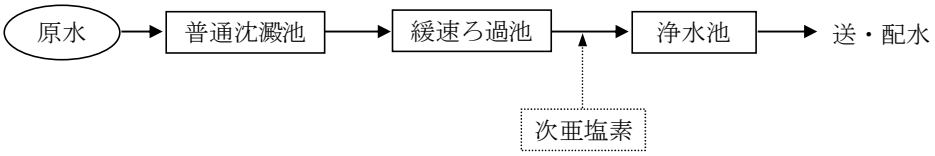


表 2-9　耐震化状況（上郷）

地区名	令和7年度				
	管路延長	耐震適合性のある管の延長	耐震管の延長	耐震適合率	耐震管率
	(m)	(m)	(m)	(%)	(%)
	(A)	(B)	(C)	(B/A)	(C/A)
上 郷	2,838	0	0	0.0	0.0

(2)-9 伊奈川地区（表流水）

伊 奈 川 浄 水 場



伊奈川地区は村所有の沢より表流水を取水堰堤にて集水し、伊奈川浄水場に導水する。伊奈川浄水場では緩速ろ過方式により表流水のろ過を行い、塩素滅菌により飲用可能な水に処理しています。この処理された水は伊奈川配水池にて貯留され区域の需要に応じて給水されています。

・取水施設の概要

施設名	形状寸法	数量 計画取水量 （認可より）	完成年 （経過年）
伊奈川水源	種別　表流水（取水堰堤+集水井）	1井 Q=10m3/日	昭和61年 （38年）
	取水堰堤 RC造		
	集水井 ﾋﾞﾆｰﾙ管　内径0.6m 深さ2.1m		

・浄水施設の概要

施設名	形状寸法	数量	完成年 （経過年）
伊奈川浄水場	緩速ろ過		昭和61年 （38年）

・配水施設の概要

施設名	形状寸法	数量	完成年 （経過年）
伊奈川配水池	V=23.4m3　RC造 3.0*3.0*3.0(2.6)*2池	1池	昭和61年 （38年）

・他施設の概要

施設名	形状寸法	数量	完成年 （経過年）
伊奈川減圧槽	V=2.4m3　RC造 2.0*1.2*1.5(1.0)*1槽	1槽	昭和61年 （38年）

⑵-10 各施設の状況（伊奈川）

・取水施設

取水状況は良好であり、安定した取水量を確保できています。

・浄水施設

浄水状況は良好であり、安定した処理水を確保できています。

・配水施設

配水池は現在 1 箇所あり、良好で安定した機能を確保できています。

・管路施設

① 導水管：導水管の総延長は現在 25m となっています。口径はφ50 で管種は HIVPRR です。布設年度は S61 となっています。

② 配水管：配水管の総延長は現在 1,898m となっています。口径はφ75～50 で管種は全体の 9 割以上が HIVPRR です。布設年度は S61 となっています。

図 2-6　布設年度と管路延長（伊奈川）

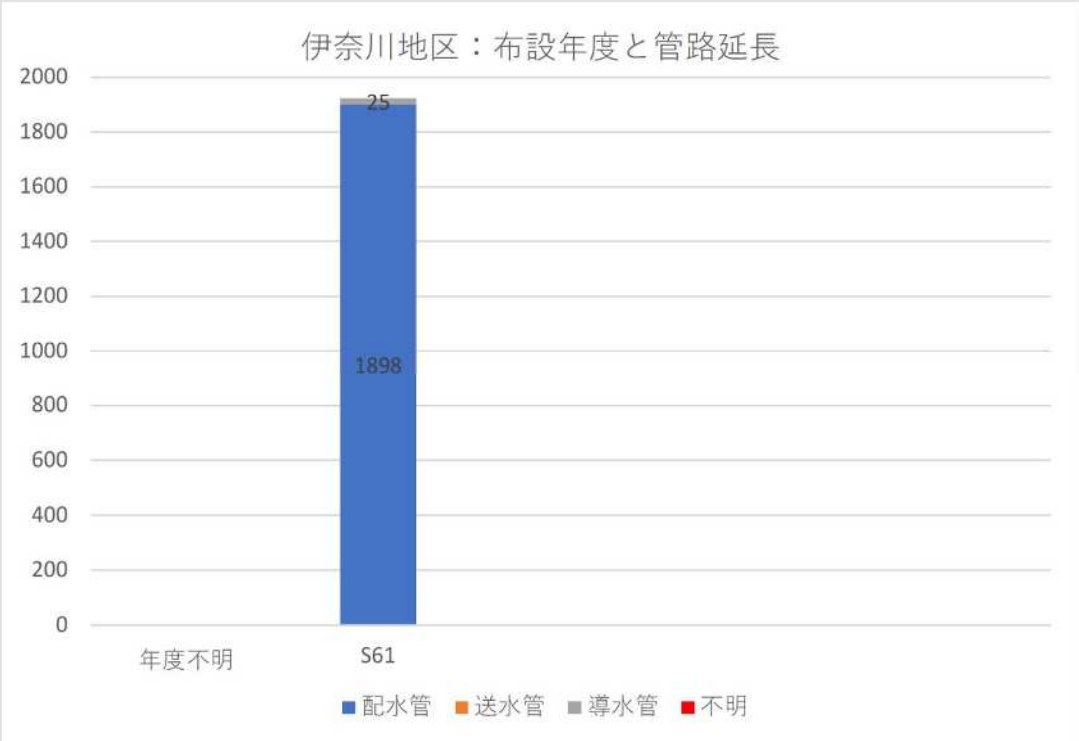


表 2-10　耐震化状況（伊奈川）

地区名	令和7年度				
	管路延長	耐震適合性のある管の延長	耐震管の延長	耐震適合率	耐震管率
	(m)	(m)	(m)	(%)	(%)
	(A)	(B)	(C)	(B/A)	(C/A)
伊奈川	1,923	0	0	0.0	0.0

表 2-11　耐震化状況（全体）

地区名	令和7年度				
	管路延長	耐震適合性のある管の延長	耐震管の延長	耐震適合率	耐震管率
	(m)	(m)	(m)	(%)	(%)
	(A)	(B)	(C)	(B/A)	(C/A)
東部	42,021	24,203	9,104	57.6	21.7
野尻	25,694	5,645	2,741	22.0	10.7
小川	5,919	763	757	12.9	12.8
上郷	2,838	0	0	0.0	0.0
伊奈川	1,923	0	0	0.0	0.0
村全体	78,395	30,610	12,602	39.0	16.1

2.7　事業経営の状況

令和 4 年度から令和 6 年度までの過去 3 年間における収益的収支は**表 2-12** のとおりです。

大桑村簡易水道事業は、令和 5 年 4 月から地方公営企業法を一部適用し、公営企業会計に移行しました。

支出の構成比が高い営業費用は、原水及び浄水費、配水及び給水費、受託工事費、総係費、減価償却費であり、中でも減価償却費が最も高額となっています。

表 2-12　収益的収支の決算状況

（単位：円）

項目＼年度		令和4年度	令和5年度	令和6年度	構成比率
収入	営業収益	77,365,000	80,785,150	80,035,863	45.8%
	営業外収益	43,610,000	113,761,903	124,102,730	54.2%
	特別損益	0	0	0	0.0%
	計	120,975,000	194,547,053	204,138,593	100.0%
支出	営業費用	53,081,000	181,394,317	189,630,843	91.2%
	営業外費用	14,213,000	12,528,101	11,327,241	8.2%
	特別損失	0	2,145,300	759,000	0.6%
	予備費	0	0	0	0.0%
	計	67,294,000	196,067,718	201,717,084	100.0%
損益合計		53,681,000	△ 1,520,665	2,421,509	

※水道事業決算書より

３．水需要予測

3.1　人口予測

(1) 給水区域内人口

給水区域内人口は、過去 10 年間の実績に基づき給水区毎に 6 通りの時系列計算方法にて推計し、相関係数、グラフ勾配等を考慮したそれぞれの採用根拠により決定します。

さらに大桑村創生総合戦略の大桑村人口ビジョンの目標値に整合するよう比例按分したのち、過去実績値（R6）より少なくなるように修正します。結果は目標年度である 10 年後、令和 17 年度には 2,714 人になると予測します。

表 3-1　給水区域内人口の推移

（各年 4月1日現在 単位：人）

年度	東部	野尻	小川	上郷	伊奈川	全体	前年比増減数	前年比増減率
H27	2,281	1,595	40	20	30	3,966	－	－
H28	2,250	1,559	35	22	26	3,892	−74	−1.9%
H29	2,188	1,529	36	22	25	3,800	−92	−2.4%
H30	2,137	1,473	40	18	25	3,693	−107	−2.8%
R元	2,073	1,421	38	20	24	3,576	−117	−3.2%
R2	2,070	1,404	35	20	24	3,553	−23	−0.6%
R3	1,989	1,396	34	20	24	3,463	−90	−2.5%
R4	1,925	1,362	32	14	24	3,357	−106	−3.1%
R5	1,881	1,314	28	15	24	3,262	−95	−2.8%
R6	1,841	1,243	29	14	23	3,150	−112	−3.4%

表 3-2　給水区域内人口の将来予測

（各年 4月1日現在 単位：人）

年度	東部	野尻	小川	上郷	伊奈川	全体	前年比増減数	前年比増減率
R7	1,787	1,231	28	14	23	3,083	－	－
R8	1,736	1,195	27	13	23	2,994	−89	−2.9%
R9	1,686	1,158	26	12	22	2,904	−90	−3.0%
R10	1,636	1,122	25	11	22	2,816	−88	−3.0%
R11	1,585	1,086	24	11	22	2,728	−88	−3.1%
R12	1,535	1,050	23	10	22	2,640	−88	−3.2%
R13	1,485	1,014	22	9	22	2,552	−88	−3.3%
R14	1,434	978	20	8	22	2,462	−90	−3.5%
R15	1,384	941	19	7	22	2,373	−89	−3.6%
R16	1,334	905	18	6	22	2,285	−88	−3.7%
R17	1,283	869	17	6	21	2,196	−89	−3.9%

表 3-3　給水区域内人口の将来予測(ﾋﾞｼﾞｮﾝ補正後 R6 から減修正)

（各年 4月1日現在 単位:人）

年度	東部	野尻	小川	上郷	伊奈川	全体	前年比増減数	前年比増減率
R7	1,819	1,253	29	14	23	3,138	－	－
R8	1,812	1,248	28	14	24	3,126	−12	−0.4%
R9	1,808	1,241	28	13	24	3,114	−12	−0.4%
R10	1,802	1,236	28	12	24	3,102	−12	−0.4%
R11	1,768	1,211	27	12	25	3,043	−59	−1.9%
R12	1,736	1,188	26	11	25	2,986	−57	−1.9%
R13	1,706	1,165	25	10	25	2,931	−55	−1.8%
R14	1,676	1,143	23	9	26	2,877	−54	−1.8%
R15	1,647	1,120	23	8	26	2,824	−53	−1.8%
R16	1,617	1,097	22	7	27	2,770	−54	−1.9%
R17	1,586	1,074	21	7	26	2,714	−56	−2.0%

(2) 給水人口

給水人口は以下の式で算出します。

給水区域内人口　＝　行政区域内人口　－　給水区域外人口

給水人口（ｃ）　＝　給水区域内人口（ａ）　×　給水普及率（ｂ）

大桑村簡易水道事業の給水普及率は東部地区 99.9%、野尻地区 100%、小川地区 100%、上郷地区 100%、伊奈川地区 100%となっています。今後も普及率が一定で続くものとして行政区域内人口を給水人口とします（東部は給水区域内人口－3 人とする)。

3.2　給水量予測

給水量の予測は、生活用水（一人当たり水量）を過去 10 年間の実績に基づき、6 通りの時系列計算方法にて推計し、相関係数、標準偏差、グラフ勾配等を考慮したそれぞれの採用根拠により採用を決定します。結果は**表 3-4** に示します。

(1) 生活用水の算出

生活用水は給水人口の動向と密接な関係があるため、ここでは給水一人当たりの使用量＝生活用原単位（ℓ/人/日）を推計し、給水人口を乗じて算出します。

生活用水（ｃ）＝生活用原単位（ａ）×給水人口（ｂ）

生活原単位は若干の減少にて推移しますが、給水人口の減少により生活用水は大きく減少します。

(2) 業務営業用水等の算出

業務営業用水は、過去 10 年間の実績値に基づき時系列計算方法にて推計しまします。

(3) 有効無収水量の算出

有効無収水量は、H27～R4 までは認可値を用いた。R5、R6 は水道別状況表の値を使用します。

表 3-4　給水量予測

給水量の算出根拠

(1)生活用水

一人一日当り生活用水量の実績

（単位：ℓ/人・日）

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	ー
東部	240	248	250	254	257	255	262	260	259	280	ー
野尻	260	258	260	265	267	268	266	277	275	303	ー
小川	200	229	222	250	263	257	265	250	250	241	ー
上郷	350	318	318	333	300	300	300	429	333	357	ー
伊奈川	167	192	200	240	208	208	250	208	208	217	ー

一人一日当り生活用水量の採用値

（単位：ℓ/人・日）

	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
東部	274	277	280	283	287	290	294	297	301	304	308
野尻	594	647	553	589	543	470	461	476	459	456	439
小川	27	26	31	30	29	24	24	22	24	23	23
上郷	18	16	19	15	16	24	18	18	17	19	18
伊奈川	10	10	10	12	10	9	8	8	7	6	10

※推計計算で相関係数が最も高い計算式を採用します。

(4) 負荷率の設定

負荷率：負荷率は区域内の生活形態、条件等は大きく変化することがないと考え過去 10 年間実績値の平均を採用します。

(5) 有効水量の設定

実績及び予想ともに有収水量+有効無収水量とします。

(6) 無効水量の設定

実績：一日平均給水量－有効水量

予想：推計計算による。但し東部については R6 年度の 88(m3/日)をベースとして毎年-1 減じた値とします。

(7) 一日平均給水量の設定

実績：年間配水量（村統計資料）/年間日数

予想：有効水量+無効水量とします。

(8) 一人一日平均給水量の設定

実績：一日平均給水量×1000/現在給水人口

予想：上記同

(9) 一日最大給水量の設定

実績：村統計資料

予想：一日平均給水量×100/負荷率とします。

(10) 一人一日最大給水量の設定

実績：一日最大給水量×1000/現在給水人口

予想：上記同

(11) 一日平均・最大給水量の算出

有収水量の算出結果、負荷率等の設定値を用いて一日平均・最大給水量を算出します。

地区ごとの予測結果のまとめを**表 3-5～9** に示します。

表3-5　給水量の実績及び予測（東部）

（東部地区）　　実績←　→予測　　（各年 4月1日現在）

項目＼年次					平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	目標17年
行政区域内人口				(人)	3,966	3,892	3,800	3,693	3,576	3,553	3,463	3,357	3,262	3,150	3,138	3,126	3,114	3,102	3,043	2,986	2,931	2,877	2,824	2,770	2,714
計画給水区域内人口				(人)	2,281	2,250	2,188	2,137	2,073	2,070	1,989	1,925	1,881	1,841	1,819	1,812	1,808	1,802	1,768	1,736	1,706	1,676	1,647	1,617	1,586
現在給水人口				(人)	2,278	2,247	2,185	2,134	2,070	2,067	1,986	1,922	1,878	1,838	1,816	1,809	1,805	1,799	1,765	1,733	1,703	1,673	1,644	1,614	1,583
普及率				(%)	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.8	99.8	99.8	99.8	99.8	99.8	99.8	99.8	99.8	99.8	99.8	99.8	99.8	99.8
給水戸数				(戸)	917	913	908	920	824	894	871	803	848	830	813	802	792	782	772	762	753	743	733	724	715
用途別水量	有効水量	有収水量	生活用	一人一日平均	(ℓ/人/日)	240	248	250	254	257	255	262	260	259	280	274	277	280	283	287	290	294	297	301	304	308
				一日平均	(m^3/日)	547	559	547	542	532	528	522	501	487	515	498	501	505	509	507	503	501	497	495	491	488
			業務営業用	一日平均	(m^3/日)	215	209	209	240	214	179	165	168	164	174	155	148	141	135	128	121	114	107	100	93	86
			工場用	一日平均	(m^3/日)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
			その他	一日平均	(m^3/日)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
			有収水量計(A)		(m^3/日)	762	768	756	782	746	707	687	669	651	689	653	649	646	644	635	624	615	604	595	584	574
		有効無収水量			(m^3/日)	10	10	10	10	10	10	10	10	2	3	4	3	3	2	2	2	2	1	1	1	1
		有効水量(B)			(m^3/日)	772	778	766	792	756	717	697	679	653	692	657	652	649	646	637	626	617	605	596	585	575
	無効水量(C)				(m^3/日)	279	278	193	226	212	303	347	223	213	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77
一日平均給水量(D)					(m^3/日)	1,051	1,056	959	1,018	968	1,020	1,044	902	866	780	744	738	734	730	720	708	698	685	675	663	652
一人一日平均給水量(E)					(ℓ/人/日)	461	470	439	477	468	493	526	469	461	424	410	408	407	406	408	409	410	409	411	411	412
一日最大給水量(F)					(m^3/日)	1,241	1,303	1,179	1,227	1,176	1,164	1,256	1,117	1,048	1,087	910	902	897	892	881	866	853	837	825	811	797
一人一日最大給水量(G)					(ℓ/人/日)	545	580	540	575	568	563	632	581	558	591	501	499	497	496	499	500	501	500	502	502	503
有収率 A/D=(H)					(%)	72.5	72.7	78.8	76.8	77.1	69.3	65.8	74.2	75.2	88.3	87.8	87.9	88.0	88.2	88.2	88.1	88.1	88.2	88.1	88.1	88.0
有効率 B/D=(I)					(%)	73.5	73.7	79.9	77.8	78.1	70.3	66.8	75.3	75.4	88.7	88.3	88.3	88.4	88.5	88.5	88.4	88.4	88.3	88.3	88.2	88.2
負荷率 D/F=(J)					(%)	84.7	81.0	81.3	83.0	82.3	87.6	83.1	80.8	82.6	71.8	81.8	81.8	81.8	81.8	81.8	81.8	81.8	81.8	81.8	81.8	81.8

表3-6　給水量の実績及び予測（野尻）

（野尻地区）　　実績←　→予測　　（各年 4月1日現在）

項目＼年次				平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	目標17年
行政区域内人口			(人)	3,966	3,892	3,800	3,693	3,576	3,553	3,463	3,357	3,262	3,150	3,138	3,126	3,114	3,102	3,043	2,986	2,931	2,877	2,824	2,770	2,714
計画給水区域内人口			(人)	1,595	1,559	1,529	1,473	1,421	1,404	1,396	1,362	1,314	1,243	1,253	1,248	1,241	1,236	1,211	1,188	1,165	1,143	1,120	1,097	1,074
現在給水人口			(人)	1,595	1,559	1,529	1,473	1,421	1,404	1,396	1,362	1,314	1,243	1,253	1,248	1,241	1,236	1,211	1,188	1,165	1,143	1,120	1,097	1,074
普及率			(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
給水戸数			(戸)	654	646	647	634	594	620	615	584	597	585	575	568	560	553	546	539	532	526	519	512	506
用途別水量	有効水量	有収水量	生活用	一人一日平均	(ℓ/人/日)	260	258	260	265	267	268	266	277	275	303	290	294	297	301	305	309	313	317	322	326	330
				一日平均	(m^3/日)	415	403	397	390	379	376	371	377	361	377	363	367	369	372	369	367	365	362	361	358	354
			業務営業用	一日平均	(m^3/日)	70	70	76	67	62	58	59	58	59	63	56	55	53	52	51	50	49	47	46	45	44
			工場用	一日平均	(m^3/日)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
			その他	一日平均	(m^3/日)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
			有収水量計(A)		(m^3/日)	485	473	473	457	441	434	430	435	420	440	419	422	422	424	420	417	414	409	407	403	398
		有効無収水量			(m^3/日)	22	22	22	22	22	22	22	22	13	9	13	12	11	10	10	9	8	8	7	7	6
		有効水量(B)			(m^3/日)	507	495	495	479	463	456	452	457	433	449	432	434	433	434	430	426	422	417	414	410	404
	無効水量(C)				(m^3/日)	87	152	58	110	80	14	9	19	26	7	7	5	4	3	2	1	1	1	1	0	0
一日平均給水量(D)					(m^3/日)	594	647	553	589	543	470	461	476	459	456	439	439	437	437	432	427	423	418	415	410	404
一人一日平均給水量(E)					(ℓ/人/日)	372	415	362	400	382	335	330	349	349	367	350	352	352	354	357	359	363	366	371	374	376
一日最大給水量(F)					(m^3/日)	930	1,027	776	709	744	625	795	740	592	504	610	610	607	607	601	593	588	581	576	569	561
一人一日最大給水量(G)					(ℓ/人/日)	583	659	508	481	524	445	569	543	451	405	487	489	489	491	496	499	505	508	514	519	522
有収率 A/D=(H)					(%)	81.7	73.1	85.5	77.6	81.2	92.3	93.3	91.4	91.5	96.5	95.4	96.1	96.6	97.0	97.2	97.7	97.9	97.8	98.1	98.3	98.5
有効率 B/D=(I)					(%)	85.4	76.5	89.5	81.3	85.3	97.0	98.0	96.0	94.3	98.5	98.4	98.9	99.1	99.3	99.5	99.8	99.8	99.8	99.8	100.0	100.0
負荷率 D/F=(J)					(%)	63.9	63.0	71.3	83.1	73.0	75.2	58.0	64.3	77.5	90.5	72.0	72.0	72.0	72.0	72.0	72.0	72.0	72.0	72.0	72.0	72.0

表3-7　給水量の実績及び予測（小川）

（小川地区）　　実績←　→予測　　（各年 4月1日現在）

項目＼年次				平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	目標17年
行政区域内人口				(人)	3,966	3,892	3,800	3,693	3,576	3,553	3,463	3,357	3,262	3,150	3,138	3,126	3,114	3,102	3,043	2,986	2,931	2,877	2,824	2,770	2,714
計画給水区域内人口				(人)	40	35	36	40	38	35	34	32	28	29	29	28	28	28	27	26	25	23	23	22	21
現在給水人口				(人)	40	35	36	40	38	35	34	32	28	29	29	28	28	28	27	26	25	23	23	22	21
普及率				(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
給水戸数				(戸)	18	15	14	15	15	15	15	14	13	14	14	14	13	13	13	13	13	13	13	13	13
用途別水量	有効水量	有収水量	生活用	一人一日平均	(ℓ/人/日)	200	229	222	250	263	257	265	250	250	241	264	266	268	270	272	273	276	276	278	279	280
				一日平均	(m^3/日)	8	8	8	10	10	9	9	8	7	7	8	7	8	8	7	7	7	6	6	6	6
			業務営業用	一日平均	(m^3/日)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			工場用	一日平均	(m^3/日)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
			その他	一日平均	(m^3/日)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
			有収水量計(A)		(m^3/日)	8	8	8	10	10	9	9	8	7	7	8	7	8	8	7	7	7	6	6	6	6
		有効無収水量			(m^3/日)	6	6	6	6	6	6	6	6	7	8	7	7	7	8	8	8	8	8	8	9	9
		有効水量(B)			(m^3/日)	14	14	14	16	16	15	15	14	14	15	15	14	15	16	15	15	15	14	14	15	15
	無効水量(C)				(m^3/日)	13	12	17	14	13	9	9	8	10	8	8	7	7	6	6	5	5	5	4	4	4
一日平均給水量(D)					(m^3/日)	27	26	31	30	29	24	24	22	24	23	23	21	22	22	21	20	20	19	18	19	19
一人一日平均給水量(E)					(ℓ/人/日)	675	743	861	750	763	686	706	688	857	793	793	750	786	786	778	769	800	826	783	864	905
一日最大給水量(F)					(m^3/日)	35	36	53	39	42	56	68	46	25	23	34	31	33	33	32	30	30	28	27	28	28
一人一日最大給水量(G)					(ℓ/人/日)	875	1,029	1,472	975	1,105	1,600	2,000	1,438	893	793	1,172	1,107	1,179	1,179	1,185	1,154	1,200	1,217	1,174	1,273	1,333
有収率 A/D=(H)					(%)	29.6	30.8	25.8	33.3	34.5	37.5	37.5	36.4	29.2	30.4	34.8	33.3	36.4	36.4	33.3	35.0	35.0	31.6	33.3	31.6	31.6
有効率 B/D=(I)					(%)	51.9	53.8	45.2	53.3	55.2	62.5	62.5	63.6	58.3	65.2	65.2	66.7	68.2	72.7	71.4	75.0	75.0	73.7	77.8	78.9	78.9
負荷率 D/F=(J)					(%)	77.1	72.2	58.5	76.9	69.0	42.9	35.3	47.8	96.0	100.0	67.6	67.6	67.6	67.6	67.6	67.6	67.6	67.6	67.6	67.6	67.6

表3-8　給水量の実績及び予測（上郷）

（上郷地区）　　実績←　→予測　　（各年 4月1日現在）

項目＼年次				平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	目標17年
行政区域内人口				(人)	3,966	3,892	3,800	3,693	3,576	3,553	3,463	3,357	3,262	3,150	3,138	3,126	3,114	3,102	3,043	2,986	2,931	2,877	2,824	2,770	2,714
計画給水区域内人口				(人)	20	22	22	18	20	20	20	14	15	14	14	14	13	12	12	11	10	9	8	7	7
現在給水人口				(人)	20	19	19	15	20	20	20	14	15	14	14	14	13	12	12	11	10	9	8	7	7
普及率				(%)	100.0	86.4	86.4	83.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
給水戸数				(戸)	10	11	12	10	11	11	12	8	9	9	9	9	9	8	8	8	8	7	7	7	7
用途別水量	有効水量	有収水量	生活用	一人一日平均	(ℓ/人/日)	350	318	318	333	300	300	300	429	333	357	351	355	358	362	366	369	373	377	381	385	389
				一日平均	(m^3/日)	7	7	7	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	4	4	4	4	3	3	3	3
			業務営業用	一日平均	(m^3/日)	5	4	2	3	3	5	3	2	3	6	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
			工場用	一日平均	(m^3/日)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
			その他	一日平均	(m^3/日)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
			有収水量計(A)		(m^3/日)	12	11	9	9	9	11	9	8	8	11	8	8	8	7	7	7	7	6	6	6	6
		有効無収水量			(m^3/日)	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
		有効水量(B)			(m^3/日)	13	12	10	10	10	12	10	9	8	11	9	9	9	8	8	8	8	7	7	7	7
	無効水量(C)				(m^3/日)	5	4	9	5	6	12	8	9	9	8	9	10	10	10	10	11	11	11	11	11	12
一日平均給水量(D)					(m^3/日)	18	16	19	15	16	24	18	18	17	19	18	19	19	18	18	19	19	18	18	18	19
一人一日平均給水量(E)					(ℓ/人/日)	900	842	1,000	1,000	800	1,200	900	1,286	1,133	1,357	1,286	1,357	1,462	1,500	1,500	1,727	1,900	2,000	2,250	2,571	2,714
一日最大給水量(F)					(m^3/日)	59	62	88	66	86	65	72	38	17	20	42	45	45	42	43	45	45	42	42	42	45
一人一日最大給水量(G)					(ℓ/人/日)	2,950	3,263	4,632	4,400	4,300	3,250	3,600	2,714	1,133	1,429	3,000	3,214	3,462	3,500	3,583	4,091	4,500	4,667	5,250	6,000	6,429
有収率 A/D=(H)					(%)	66.7	68.8	47.4	60.0	56.3	45.8	50.0	44.4	47.1	57.9	44.4	42.1	42.1	38.9	38.9	36.8	36.8	33.3	33.3	33.3	31.6
有効率 B/D=(I)					(%)	72.2	75.0	52.6	66.7	62.5	50.0	55.6	50.0	47.1	57.9	50.0	47.4	47.4	44.4	44.4	42.1	42.1	38.9	38.9	38.9	36.8
負荷率 D/F=(J)					(%)	30.5	25.8	21.6	22.7	18.6	36.9	25.0	47.4	100.0	95.0	42.4	42.4	42.4	42.4	42.4	42.4	42.4	42.4	42.4	42.4	42.4

表3-9　給水量の実績及び予測（伊奈川）

（伊奈川地区）　　実績←　→予測　　（各年 4月1日現在）

項目 ＼ 年次		平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	目標17年
行政区域内人口	(人)	3,966	3,892	3,800	3,693	3,576	3,553	3,463	3,357	3,262	3,150	3,138	3,126	3,114	3,102	3,043	2,986	2,931	2,877	2,824	2,770	2,714
計画給水区域内人口	(人)	30	26	25	25	24	24	24	24	24	23	23	24	24	24	25	25	25	26	26	27	26
現在給水人口	(人)	30	26	25	25	24	24	24	24	24	23	23	24	24	24	25	25	25	26	26	27	26
普及率	(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
給水戸数	(戸)	8	8	8	8	8	8	9	9	9	9	9	9	10	10	10	10	10	10	11	11	11
用途別水量 有効水量 有収水量 生活用 一人一日平均	(ﾘｯﾄﾙ/人/日)	167	192	200	240	208	208	250	208	208	217	229	231	233	236	237	238	240	241	243	244	245
用途別水量 有効水量 有収水量 生活用 一日平均	(m^3/日)	5	5	5	6	5	5	6	5	5	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	7	6
用途別水量 有効水量 有収水量 業務営業用 一日平均	(m^3/日)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
用途別水量 有効水量 有収水量 工場用 一日平均	(m^3/日)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
用途別水量 有効水量 有収水量 その他 一日平均	(m^3/日)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
用途別水量 有効水量 有収水量 有収水量計(A)	(m^3/日)	5	5	5	6	5	5	6	5	5	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	7	6
用途別水量 有効水量 有効無収水量	(m^3/日)	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3
用途別水量 有効水量 有効水量(B)	(m^3/日)	6	6	6	7	6	6	7	6	7	6	7	8	8	8	8	8	8	9	9	10	9
用途別水量 無効水量(C)	(m^3/日)	4	4	4	5	4	3	1	2	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
一日平均給水量(D)	(m^3/日)	10	10	10	12	10	9	8	8	7	6	10	11	11	11	11	11	11	12	12	13	12
一人一日平均給水量(E)	(ﾘｯﾄﾙ/人/日)	333	385	400	480	417	375	333	333	292	261	435	458	458	458	440	440	440	462	462	481	462
一日最大給水量(F)	(m^3/日)	16	16	16	18	18	16	15	20	7	6	15	17	17	17	18	17	17	18	18	20	18
一人一日最大給水量(G)	(ﾘｯﾄﾙ/人/日)	533	615	640	720	750	667	625	833	292	261	652	708	708	708	720	680	680	692	692	741	692
有収率 A/D=(H)	(%)	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	55.6	75.0	62.5	71.4	83.3	50.0	54.5	54.5	54.5	54.5	54.5	54.5	50.0	50.0	53.8	50.0
有効率 B/D=(I)	(%)	60.0	60.0	60.0	58.3	60.0	66.7	87.5	75.0	100.0	100.0	70.0	72.7	72.7	72.7	72.7	72.7	72.7	75.0	75.0	76.9	75.0
負荷率 D/F=(J)	(%)	62.5	62.5	62.5	66.7	55.6	56.3	53.3	40.0	100.0	100.0	65.9	65.9	65.9	65.9	65.9	65.9	65.9	65.9	65.9	65.9	65.9

４．事業の分析

4.1　問題点と課題の抽出

ここでは、水道施設を取水施設、浄水施設、送水施設、配水施設、管路施設に区分して問題点と課題を抽出します。

(1) 取水施設

各水源は良好であり計画の 10 年間では特に更新等の必要性はないものと考えます。但し、東部地区の第 1 水源は水源までの道のりが険しいため、水源の維持管理や導水管路の整備に支障を来しており、水源の見直しを含めて将来検討が必要となります。また伊奈川水源の取水量が安定しない傾向がみられますので、こちらについても将来検討が必要となります。

(2) 浄水施設

東部浄水場の膜ろ過モジュールは令和 9 年に、公称されている耐用年数が来るため更新が必要となりますが現在良好で安定した運転がされています。また膜ろ過設備は近年開発されたものであり実使用年数が定まっていないため、運転状況（適切なメンテナンスの有無や使用環境、水源水質等）によっては更新時期が前後することが予想されます。本計画では経過観察とします。

野尻浄水場は急速ろ過にて浄水処理を行っていますが、機器類の更新を行い現在は良好に運転しています。小川浄水場、上郷浄水場、伊奈川浄水場は緩速ろ過にて浄水処理を行い、現在は良好な運転を行っています。計画 10 年後には機器類の更新が必要となってくることが予想されます。計画見直し時に検討が必要となります。

(3) 送水施設

各所の送水ポンプは現在良好な運転がされています。

機器類の耐用年数は 15 年（平均使用年数実績：電気 25 年、機械 24 年、計装 21 年）早いため、更新時期を把握した対応が必要となります。

(4) 配水施設

東部および野尻地区の配水池はほとんどが創設時以前もしくは創設時の施設であり、老朽化が進み耐震性にも乏しい施設となっています。特に東部地区では、須原第１（69 年）、東第１（67 年）、野尻地区では低区（69 年）と法定耐用年数 60 年（平均使用年数 73 年）を超過しているため、耐震化と被災時給水供給拠点の両方を考慮した配水池整備を計画します。

(5) 管路施設

東部および野尻地区の管路施設には布設年度不明の管路が存在しており、延長は東部地区で 3,310m、野尻地区で 7,511m が判明しています。老朽管の更新及び耐震化率の向上を目指し、耐震管への布設替えを計画します。

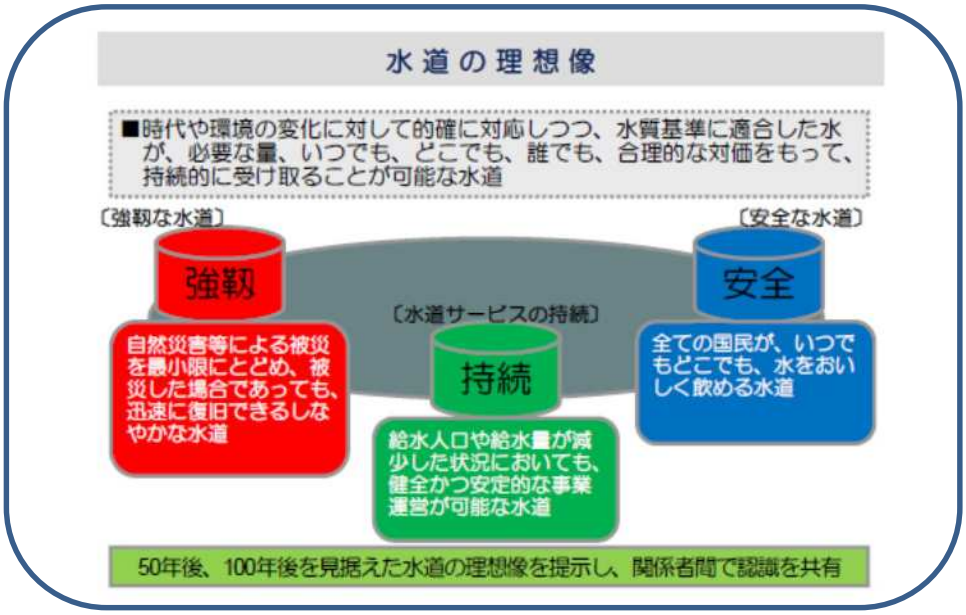
さらに野尻向橋水管橋新設 650m（川向配水ポンプ場の廃止および野尻配水区管網のループ化）、東部-伊奈川地区耐震管新設 450m（伊奈川配水区の縮小）についても管路整備を計画します。

右岸道路築造に合わせた耐震管の新設 1,700m（川向配水ポンプ場の廃止）は現況水道管網の老朽管更新を優先させるため本計画では除外します。

4.2　施策目標と主要施策

抽出された施設・運営状況におけるそれぞれの問題点と課題は厚生労働省 新水道ビジョンに示された「安全」・「強靭」・「持続」の理想像に分類するとともに、取り組むべき目標と施策を設定します。

厚生労働省　新水道ビジョンより



(1)「安全」　安全な水道

【目標】

安心と信頼を目指し、水源保全の取組みを進め、原水水質から浄水処理及び配水までの監視を強化し、いつでもどこでも、おいしく飲める水道に努めます。

【施策】

①水源保全協力の働きかけ

目的不明な土地取引による地下水への影響、涵養機能の低下を防ぐため、水源地域の土地の取引等について、住民の方々へ保全の協力を得られるよう働きかけていきます。

②関係機関との連携強化

河川管理者や電力会社など関係機関との連携強化を図り、情報の共有や原水水質の監視を強化します。

(2)「強靭」　強靭な水道

【目標】

強靭な水道施設を構築するために、老朽化した施設の計画的な更新とともに、水道施設の耐震化、近隣水道事業者とのネットワーク網をつくり、災害時においても水道水の供給ができるよう努めます。

【施策】

①施設更新計画

配水池等の基幹施設及び管路の老朽施設の更新計画を立案します。

②施設の耐震化

施設更新に合わせた耐震化を計画し耐震化率の向上に努めます。

③応急給水設備の設置

災害時に応急給水を行えるような配水池等の施設を整備します。

④近隣水道事業者との相互連携の検討

近隣水道事業者からの給水供給を視野に今後の連携を協議し検討していきます。

(3)「持続」　水道サービスの持続

【目標】

水道事業の必要性に対する理解を深めていただくために、有効な情報提供手段により情報提供の充実を図るとともに、健全かつ安定的な事業運営がなされるよう努めます。

【施策】

①情報提供手法の検討・実施

水道事業への理解を深めるとともに、事業運営の透明性を確保するために、広報誌等を通じて水道事業の紹介や水の大切さを情報提供します。

②水道施設見学会の積極的な開催

小学生以外にも水道施設見学会を行う機会をつくり、水道の仕組みについて理解を深めていただくよう努めます。

③地球環境に配慮した施設計画

地球環境に配慮し、また経営効率を高めるため、高低差を利用した位置エネルギーを最大限活用した施設計画と共に、省エネルギー化を図る資機材の利用を検討します。

５．事業計画

5.1　整備計画

(1) 整備計画の方針

整備計画は国レベルの人口減を踏まえ、村の将来に向けての適正規模とした水道事業を目指すため、施設の見直しによるダウンサイジングを踏まえた計画を行います。

・計画期間

計画期間は、令和 8（2026）年度から令和 17（2035）年度までの 10 年間とします。

(2) 整備計画の概要

整備計画は、問題と課題で抽出した内容を実行するものとして、年次計画を立て整備計画とします。**表 5-1　年次計画参照**

表5-1　年次計画

単位(千円、税別)

	令和8年 (2026)	令和9年 (2027)	令和10年 (2028)	令和11年 (2029)	令和12年 (2030)	令和13年 (2031)	令和14年 (2032)	令和15年 (2033)	令和16年 (2034)	令和17年 (2035))	計	令和18年 (2036)	令和19年 (2037)	令和20年 (2038)	令和21年 (2039)	令和22年 (2040)	計	備　考
管路施設（更新）																		
・東部	0	0	67,347	67,347	67,347	0	0	0	0	0	202,041	0	0	0	0	0	0	
・東部(設計)	0	7,400	7,400	7,400	0	0	0	0	0	0	22,200	0	0	0	0	0	0	
・野尻	0	0				99,236	99,236	99,236	99,236	99,236	496,180	0	0	0	0	0	0	
・野尻(設計)	0				9,710	9,710	9,710	9,710	0	0	38,840	0	0	0	0	0	0	
管路施設（計画管）																		
・野尻向橋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	110,330	0	110,330	
・野尻向橋（設計）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15,490	0	0	15,490	
・東部伊奈川	0	0	113,050	0	0	0	0	0	0	0	113,050	0	0	0	0	0	0	
・東部伊奈川（設計）	0	14,020	0	0	0	0	0	0	0	0	14,020	0	0	0	0	0	0	
・和村橋	110,870	0	0	0	0	0	0	0	0	0	110,870	0	0	0	0	0	0	
・和村橋（設計）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
・野尻旭町	0	0	22,120	0	0	0	0	0	0	0	22,120	0	0	0	0	0	0	
・野尻旭町（設計）	0	6,440	0	0	0	0	0	0	0	0	6,440	0	0	0	0	0	0	
配水施設（更新）																		
・野尻低区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	84,460	84,460	0	0	0	0	0	0	70,530(RC)
・野尻低区（設計）	0	0	0	0	0	0	0	0	18,270	0	18,270	0	0	0	0	0	0	16,720(RC)
・須原	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	55,075	55,075	0	0	0	110,150	65,400(RC)
・須原(設計)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29,050	29,050	0	0	0	0	0	0	23,230(RC)
・東	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	71,575	71,575	0	0	143,150	111,370(RC)
・東(設計)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31,060	0	0	0	0	31,060	27,970(RC)
工事合計	110,870	0	202,517	67,347	67,347	99,236	99,236	99,236	99,236	183,696	1,028,721	55,075	126,650	71,575	110,330	0	363,630	
設計合計	0	27,860	7,400	7,400	9,710	9,710	9,710	9,710	18,270	29,050	128,820	31,060	0	15,490	0	0	46,550	
全体合計	110,870	27,860	209,917	74,747	77,057	108,946	108,946	108,946	117,506	212,746	**1,157,541**	86,135	126,650	87,065	110,330	0	**410,180**	
税込合計	121,957	30,646	230,909	82,222	84,763	119,841	119,841	119,841	129,257	234,021	1,273,295	94,749	139,315	95,772	121,363	0	451,198	
補助	40,652	10,215	76,969	27,407	28,254	39,946	39,946	39,946	43,085	78,006	424,426	31,582	46,438	31,923	40,454	0	150,397	
過疎	40,600	10,200	76,900	27,400	28,200	39,900	39,900	39,900	43,000	78,000	424,000	31,500	46,400	31,900	40,400	0	150,200	
簡水	40,700	10,200	77,000	27,400	28,300	39,900	39,900	39,900	43,100	78,000	424,400	31,600	46,400	31,900	40,500	0	150,400	
一般	5	31	40	15	9	95	95	95	72	15	469	67	77	49	9	0	201	

5.2　財政計画

(1)　概算事業費

概算事業費は、10 年後の令和 17 年度までに総額で約 12 億 7,330 万円を見込みます。

財源内訳は国庫補助金が事業費の 1/3 該当すると予定して約 4 億 2,440 万円、過疎債及び簡水債も約 4 億 2,440 万円ずつ、約 50 万円を他会計からの出資金として計画します。

表 5-2　事業費総括表

単位(千円、税別)

施設別	金　額	短期 (R8~R12)	中期 (R13~R17)	長期 (R18~R22)	備　考
管路施設 (更新)	698,221	202,041	496,180	0	
管路施設 (計画管)	246,040	246,040	0	110,330	
配水施設 (更新)	84,460	0	84,460	253,300	SUS 地上式
設計業務	128,820	52,370	76,450	46,550	
合計	1,157,541	500,451	657,090	410,180	
税込合計	1,273,295	550,496	722,799	451,198	

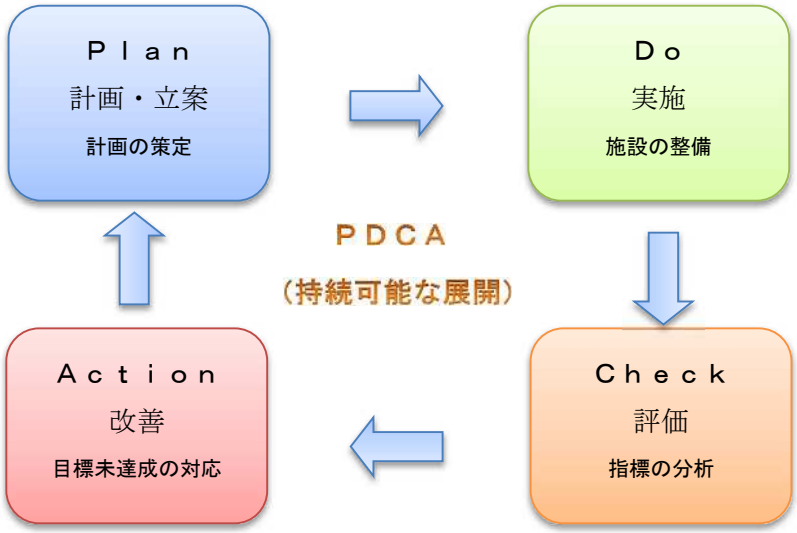
5.3　評価と見直し

(1)　進捗状況と実施効果

計画の進捗状況は、施設更新状況や老朽管の残延長など、施設整備で事業の推進を図り、定期的に進捗状況を確認することが必要です。10 年間という長期整備計画の中では人口の変動や水需要の動向も社会情勢の変化によって大きく変わる可能性があるため、進捗状況と併せて事業の成果や効果を把握しながら、計画の中期段階での見直しをする中で、水道施設整備を進めていきます。

(2)　計画の見直し

計画の見直しはＰＤＣＡサイクルにより、事業の進捗(Ｄｏ)、目標達成状況の確認（Ｃｈｅｅｋ）、改善の検討（Ａｃｔｉｏｎ）を行い当初計画や事業推進に伴う問題点、事業の有効性などを確認しながら計画の推進や見直し（Ｐｌａｎ）を行います。



ＰＤＣＡサイクル